

中国の若者を追い詰める「内卷」現象とは？

JSC 貿易部ニュース 中国編

中国の SNS やニュースで頻繁に見かけるようになった言葉「内卷（ネイジュアン）」。
日本語では「うちまき」と読みますが、現代中国では若者が直面する“終わりのない競争”
を象徴する言葉になっています。

今回は、この社会現象の背景と、日本でも無関係ではない理由をご紹介します。

■ 内卷（ネイジュアン）とは？

— 努力しても報われない「立ち見の映画館」

「内卷」はもともと人類学の用語で、“内側に巻き込まれていくように、競争が過熱し続ける状態”を指すそうです。

よく使われる例えが「映画館の立ち見」です。

- ・最初は全員が座って映画を見ている
- ・前の人が立ち上がる
- ・後ろの人も見えなくなるので立つ
- ・最終的に全員が立ちっぱなしに…



内卷

努力しても得られる成果は変わらず、ただ疲れるだけ。これが今、中国の若者が感じている「内卷」の正体です。

中国は長年、急成長を続けてきましたが、近年は成長が鈍化。その結果、競争は「希望」から「消耗」へと変わりました。

- ・学歴インフレ：修士号でも一般職に応募が殺到
- ・長時間労働の常態化：「996」勤務（朝9時～夜9時、週6日）
- ・親からの期待の集中：一人っ子政策の影響でプレッシャーが増大

若者たちは「頑張っても報われない」という感覚を強めています。

■ 内巻から「躺平（タンピン）」へ



— 競争から降りる若者たち

過酷な競争に疲れた若者の間で広がったのが「躺平（タンピン）＝寝そべり族」という生き方。「どうせ家も買えないし、結婚も難しい。なら最低限で生きて、競争から降りよう」という静かな抵抗です。さらに最近では、「擺爛（バイラン）」＝腐ったまま動かないという、より自虐的な言葉まで登場しています。

■ 日本にとっても他人事ではない

SNSによる比較疲れ、サービス過剰による労働負荷など、日本でも似た現象が見られます。

「努力＝報われる」という前提が揺らいだとき、社会はどう進むべきなのか。中国の「内巻」は、私たちにも問いを投げかけています。

◆ 今月のおすすめ石種

AG213（湖南省産 中国大島）

■ 基本データ

比重：2.71 t/m³ 吸水率：0.239% 圧縮強度：122.7 N



■ 石材店様や営業担当者の評価

「硬質で水に強い」扱いやすい優等生

AG213は、中国材の中でも比較的吸水率が低いのが特徴です。実際に扱っていても、福建省系の石より明らかに硬く、水ハケが良いと感じます。

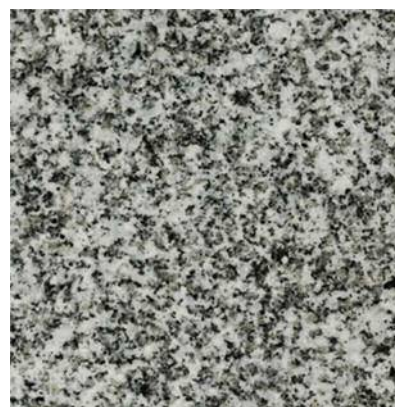
雨後でもスッキリとした表情を保ち、変色・サビ・凍結による劣化リスクが少ない点は大きな魅力です。

■ 上品な「青みがかった白」

AG213は白御影の中でも細目で青みのある白が特徴です。

クセがなく、どんな墓石形状にも調和する万能型です。

- ・黒粒が少なく清涼感のある白
- ・和型・洋型どちらにも合う
- ・外柵にも石碑にも使いやすい



AG213は、品質の安定性・硬質さ・水に対する強さのバランスが非常に良く、墓石・外柵どちらにも安心してお使いいただける石種です。

ご検討やご用命の際は、ぜひ弊社の担当営業にお気軽にお声掛けください。

中国社会の変化や現地の労働環境は、石材供給の安定性にも少なからず影響を及ぼします。私たちが最新情報を丁寧にお伝えしながら、皆様の仕入判断や販売計画に少しでもお役立てできるよう努めてまいります。

それでは今月も最後までお読みいただき、誠にありがとうございます。

引き続き、日本石材センターをどうぞよろしく願いいたします。